

宮崎県感染症発生動向調査概況 —2021年/令和3年—

宮崎県衛生環境研究所

【目 次】

1	全数把握対象疾患	
(1)	2021年に報告された疾患とその報告数	2
(2)	主な全数把握対象疾患の概要	3
	(ア) 結核	
	(イ) つつが虫病	
	(ウ) 重症熱性血小板減少症候群	
	(エ) 梅毒	
	(オ) その他の全数把握対象疾患	
2	定点把握対象疾患	5
(1)	インフルエンザ及び小児科対象疾患	
	(ア) 前年との比較	
	(イ) 例年との比較	
	(ウ) 全国との比較	
	(エ) 注目すべき疾患	
	a) R S ウイルス感染症	
	b) 手足口病	
(2)	眼科及び基幹定点対象疾患	8
	(ア) 眼科定点対象疾患	
	(イ) 基幹定点対象疾患	
(3)	月報告定点把握対象疾患	8
	(ア) 性感染症	
	(イ) 薬剤耐性菌感染症	

1 全数把握対象疾患

(1) 2021年に報告された疾患とその報告数を表1に示す。

表1 2021年に報告された全数把握対象疾患の推移—2017～2021—

分類	疾病名	2021年 ^{※1}	2020年	2019年	2018年	2017年
2類感染症	結核	130	152	194	163	189
		15,799	17,786	21,672	22,448	23,427
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	29	23	42	39	17
		3,220	3,094	3,744	3,854	3,904
4類感染症	E型肝炎	5	3	1	3	3
		452	454	493	446	305
	重症熱性血小板減少症候群	13	5	8	12	13
		109	78	101	77	90
	つつが虫病	72	57	43	60	33
		534	538	404	456	447
	日本紅斑熱	19	13	8	19	8
		486	422	318	305	337
レジオネラ症	13	9	8	7	9	
	2,112	2,059	2,316	2,142	1,733	
5類感染症	アメーバ赤痢	3	8	4	2	4
		529	611	853	843	1,089
	ウイルス性肝炎	4	6	4	7	5
		201	246	331	277	294
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	5	3	14	14	12
		2,038	1,956	2,333	2,289	1,660
	クリプトスポリジウム症	2	-	1	-	-
		5	6	19	25	19
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	3	1	2	3
		178	157	193	221	200
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	6	11	4	4
		646	718	894	694	587
	後天性免疫不全症候群	5	5	5	7	11
		1,047	1,094	1,231	1,301	1,395
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4	2	1	3	2
		194	253	543	488	372
	侵襲性肺炎球菌感染症	7	10	12	24	15
		1,388	1,655	3,344	3,328	3,205
	水痘(入院例)	4	9	1	2	2
		298	362	492	466	312
梅毒	89	40	23	10	21	
	7,873	5,867	6,642	7,007	5,826	
播種性クリプトコックス症	4	2	2	5	1	
	159	152	156	182	137	
破傷風	7	5	3	4	5	
	93	104	126	134	125	
百日咳 ^{※2}	2	37	304	318	-	
	746	2,819	16,845	12,115	-	

上段:県内の報告数

下段:全国の報告数

※1 2021年の全国報告数については速報値。

※2は2018年1月から全数把握対象。

(2) 主な全数把握対象疾患の概要

(ア) 結核

報告総数は130例で、保健所別報告数を図1-1、1-2に示す。患者が89例、疑似症患者が3例、無症状病原体保有者が38例で、患者は肺結核が51例、肺結核及びその他の結核が8例、その他の結核（結核性胸膜炎、結核性リンパ節炎など）が30例であった（図1-3）。男性が69例、女性が61例で、年齢群別報告数の割合を図1-4に示す。70歳以上が全体の約6割を占めている。

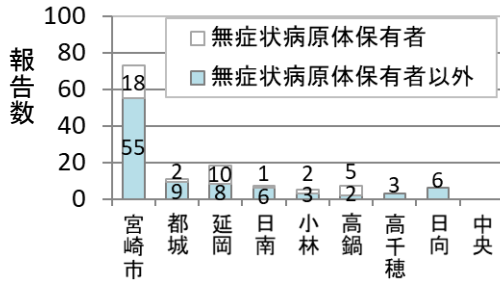


図1-1 保健所別報告数 (2021年結核)

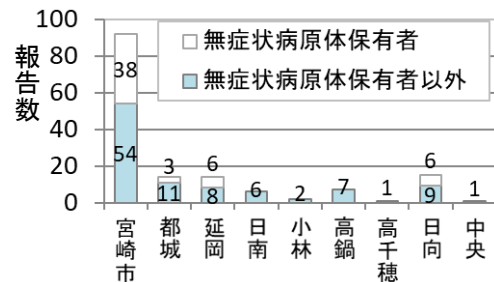


図1-2 保健所別報告数 (2020年結核)

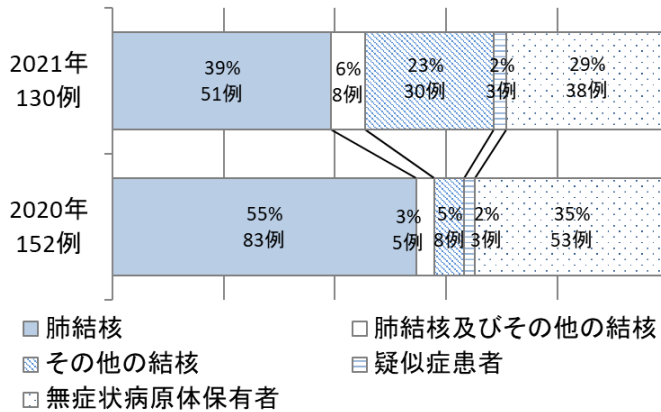


図1-3 病型別報告数の割合 (結核)

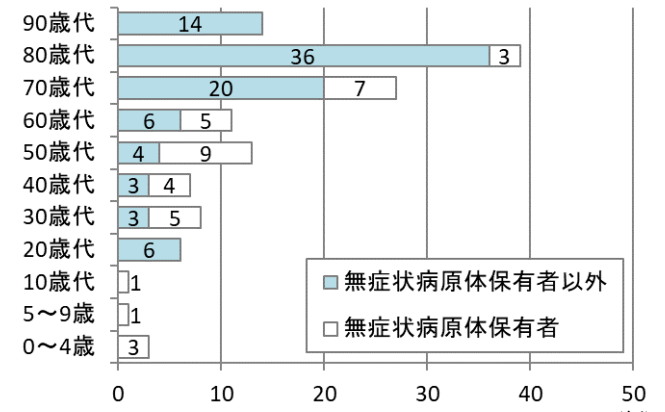


図1-4 年齢群別報告数 (結核)

(イ) つつが虫病

報告総数は72例で、保健所別報告数を図2に示す。患者発生時期は例年同様冬季で、11月及び12月の報告が全体の約8割を占めている（表2-1）。男性が45例、女性が27例で、年齢別では60歳以上が約8割を占めている（表2-2）。

表2-1 月別報告数 (つつが虫病)

1月	2月	4月	5月	10月	11月	12月
10	1	1	1	2	26	31

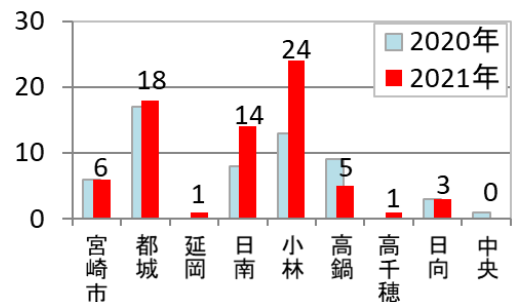


図2 保健所別報告数 (つつが虫病)

表2-2 年齢群別報告数 (つつが虫病)

5-9歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	2	3	1	9	19	22	13	2

資料 1

(ウ) 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)
報告総数は 13 例で、宮崎市 (7 例)、延岡 (3 例)、高鍋 (2 例)、都城 (1 例) 保健所管内から報告された。届出が開始された 2013 年 3 月からの患者の月別発症者数を図 3、年齢群別報告数を表 3 に示す。

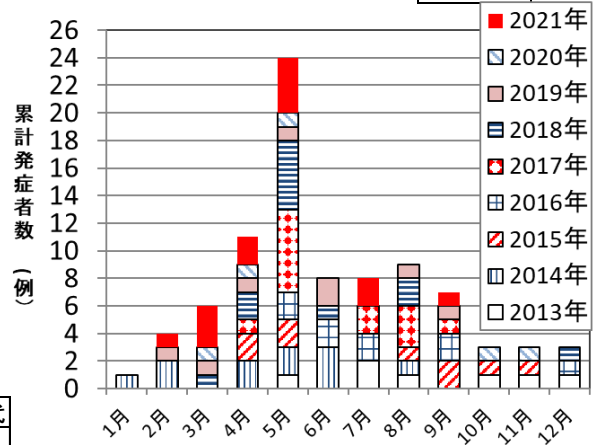


図 3 月別発症者数 (SFTS)
(2013年3月~2021年12月 n=87)

表 3 年齢群別報告数 (SFTS) (n=87)

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	3	20	35	20	5

(エ) 梅毒

報告総数は 89 例で、宮崎市 (67 例)、都城、延岡 (各 8 例)、日向 (5 例)、小林 (1 例) 保健所管内から報告された。男性が 51 例、女性が 38 例で、年齢群別報告数の割合を図 4-1、類型別報告数の推移を図 4-2 に示す。患者のうち、早期顕症梅毒 (I 期) が 25 例、早期顕症梅毒 (II 期) が 40 例、無症状病原体保有者が 23 例、先天梅毒が 1 例であった。感染経路は、異性間性的接触 59 例、同性間性的接触 4 例、性的接触 (異性間同性間不明) 14 例、母子感染 1 例、不明 11 例であった。

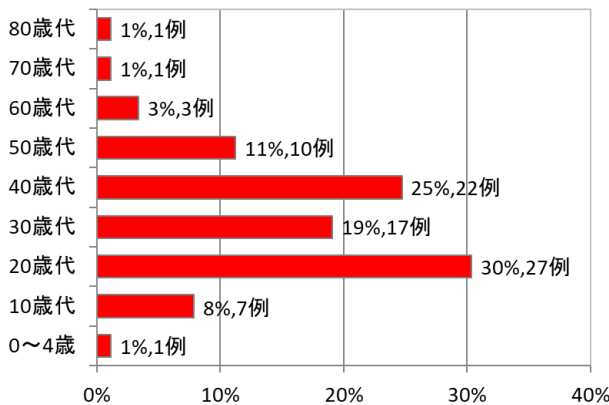


図 4-1 年齢群別報告数の割合 (梅毒)

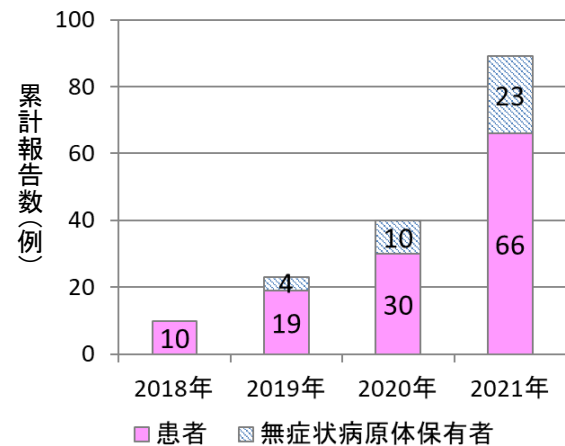


図 4-2 類型別報告数の推移 (梅毒)

(オ) その他の疾患

・レジオネラ症 (13 例) : 宮崎市 (7 例)、小林 (4 例)、延岡、高鍋 (各 1 例) 保健所管内から報告された。男性が 11 例、女性が 2 例で、30 歳代が 1 例、50 歳代が 2 例、60 歳代と 70 歳代が各 4 例、90 歳代と 100 歳代が各 1 例であった。また、病型別では、肺炎型が 12 例、ポンティアック熱型が 1 例であった。

・クリプトスポリジウム症 (2 例) : 宮崎市、高鍋保健所管内から報告された。いずれも男性で、年齢は 20 歳代と 30 歳代であった。感染経路として動物・蚊・昆虫等からの感染が疑われた。

2 定点把握対象疾患

(1) インフルエンザ及び小児科対象疾患

2021年のインフルエンザ及び小児科対象疾患の報告数を、前年（2020年）、過去5年間の平均（以下、「例年」という）及び全国と比較した。報告総数は25,123人（定点あたり697.8）で、前年の104%、例年の54%、全国の206%であった。

(ア) 前年との比較（図5-1）

増加した主な疾患はRSウイルス感染症（約14.6倍）、手足口病（約5.1倍）、ヘルパンギーナ（約1.5倍）で、減少した主な疾患は、インフルエンザ（0.01倍以下）、伝染性紅斑（約0.1倍）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘（約0.6倍）であった。

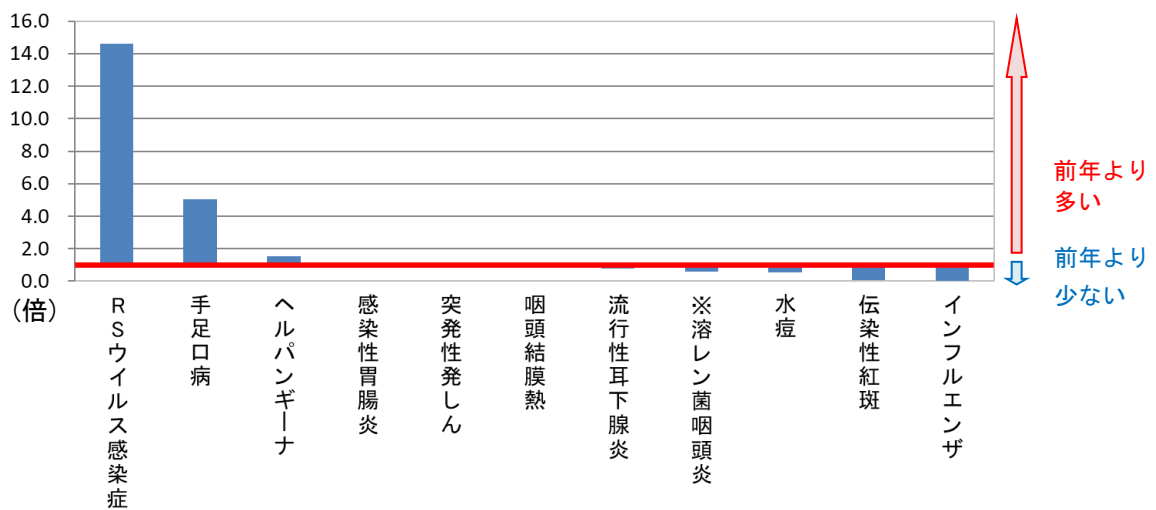


図5-1 2021年 前年との比較（インフルエンザ及び小児科定点対象疾患）

※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

(イ) 例年との比較（図5-2）

多かった主な疾患はRSウイルス感染症（約2.0倍）で、少なかった主な疾患はインフルエンザ（0.01倍以下）、伝染性紅斑（約0.04倍）、流行性耳下腺炎（約0.1倍）、水痘（約0.4倍）であった。

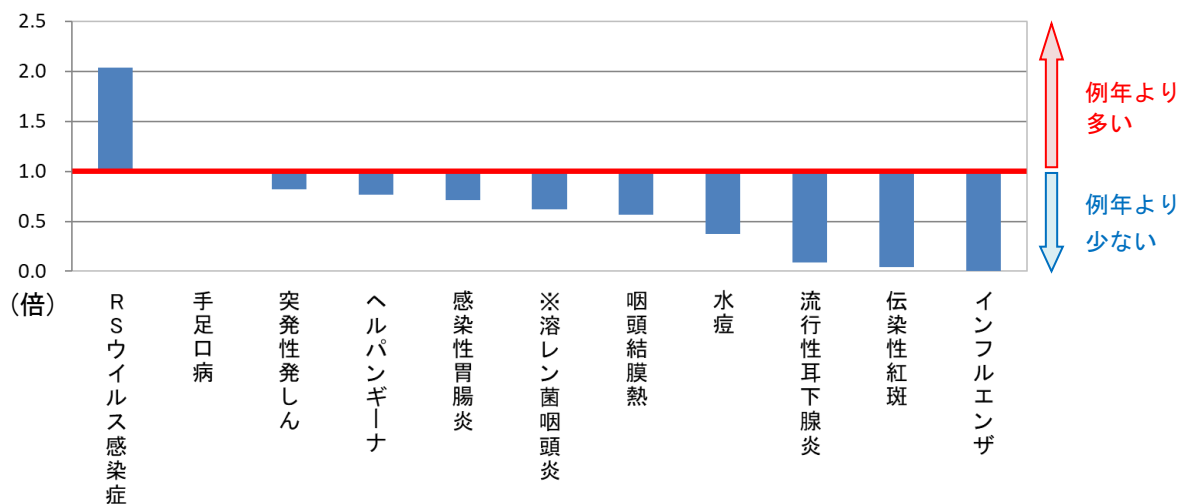


図5-2 2021年 例年との比較（インフルエンザ及び小児科対象疾患）

(ウ) 全国との比較 (図 5-3)

多かった主な疾患は手足口病 (約 4.2 倍)、ヘルパンギーナ (約 2.9 倍)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (約 2.5 倍) で、少なかった疾患はインフルエンザ (約 0.2 倍) であった。

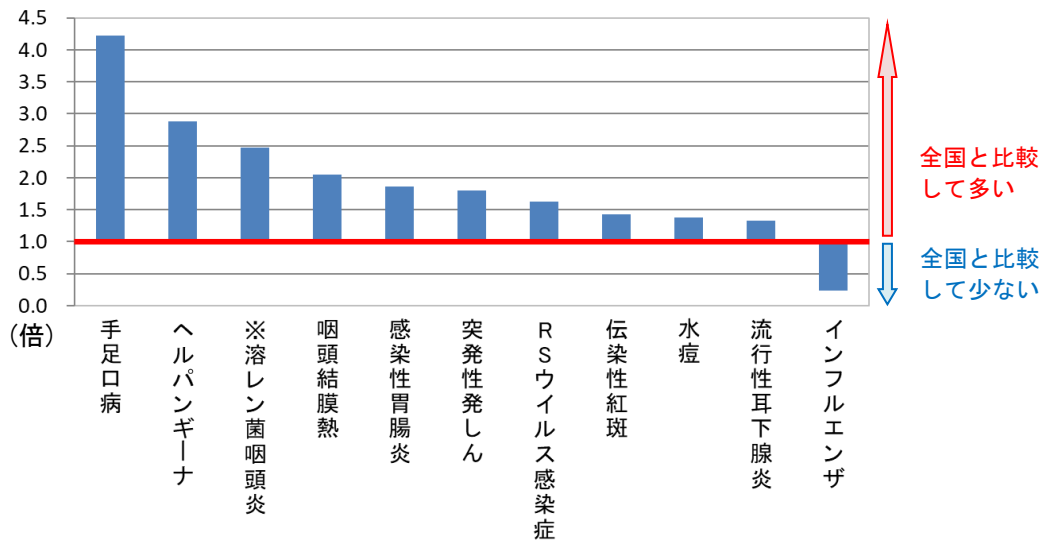


図 5-3 2021 年 全国との比較 (インフルエンザ及び小児科対象疾患)

(エ) 注目すべき疾患

a) RSウイルス感染症 (図 6-1~4)

RSウイルス感染症の報告総数は 4,218 人 (定点あたり 117.2) で、前年の約 14.6 倍、例年の約 2.0 倍、全国の約 1.6 倍であった。発生状況を図 6-1、過去 5 年の定点あたり累積報告数推移を図 6-2、保健所別報告数を図 6-3 に、年齢群別報告数の割合を図 6-4 に示す。

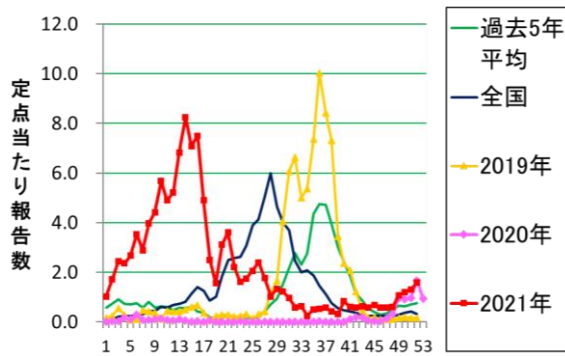


図 6-1 RSウイルス感染症 発生状況

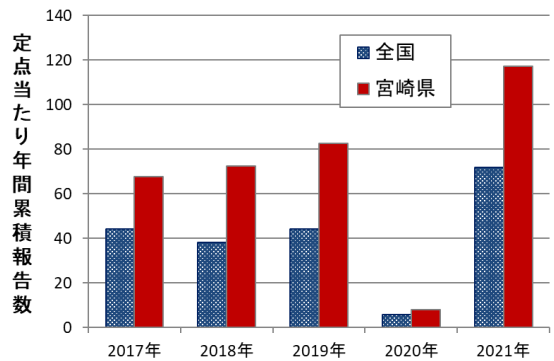


図 6-2 年間累積報告数推移 (RSウイルス感染症)

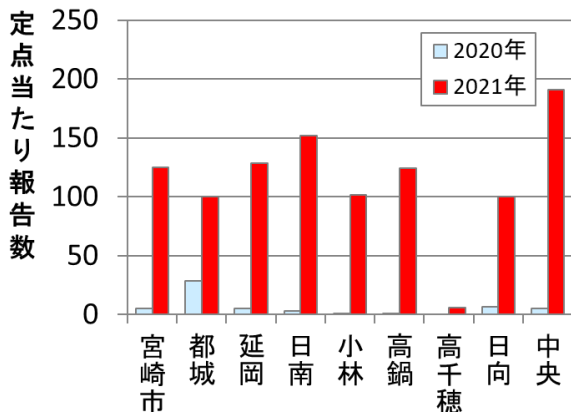


図 6-3 保健所別報告数 (RSウイルス感染症)

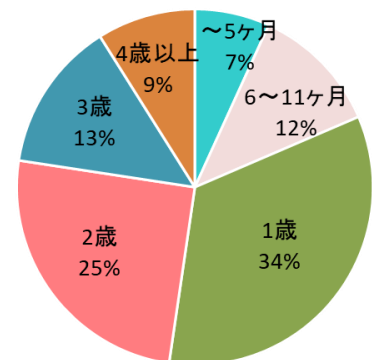


図 6-4 年齢群別報告数の割合 (RSウイルス感染症)

b) 手足口病 (図 7-1~4)

手足口病の報告総数は 3,720 人 (定点あたり 103.3) で、前年の約 5.1 倍、例年と同率、全国の約 4.2 倍であった。発生状況を図 7-1、過去 5 年の定点あたり累積報告数推移を図 7-2、保健所別報告数を図 7-3 に、年齢群別報告数の割合を図 7-4 に示す。

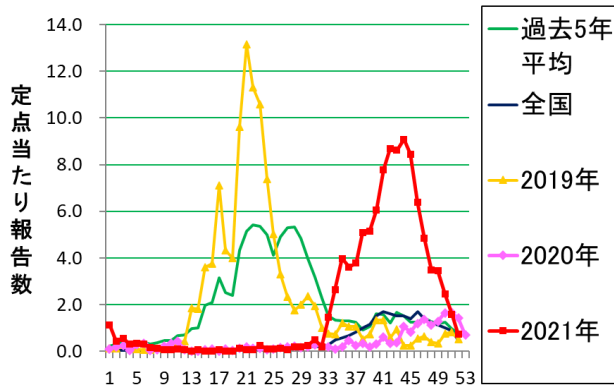


図 7-1 手足口病 発生状況

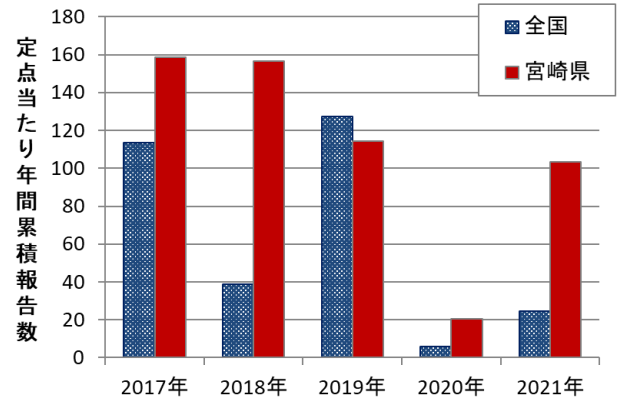


図 7-2 年間累積報告数推移 (手足口病)

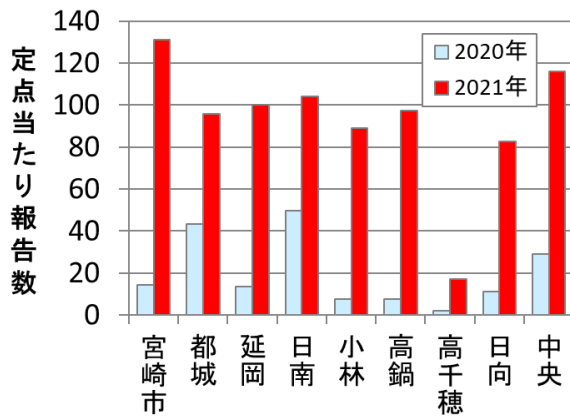


図 7-3 保健所別報告数 (手足口病)

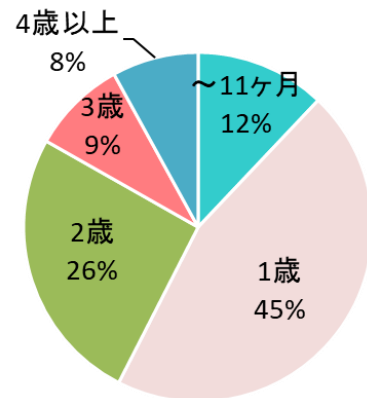


図 7-4 年齢群別報告数の割合 (手足口病)

(2) 眼科及び基幹定点対象疾患
2021年の眼科及び基幹定点対象疾患の報告数を、前年、例年及び全国と比較した(図8)。

(ア) 眼科定点対象疾患

報告総数は198人(定点あたり33.0)で、前年の133%、例年の30%、全国の329%であった。

(イ) 基幹定点対象疾患

報告総数は2人(定点あたり0.29)で、前年の13%、例年の1%、全国の9%であった。

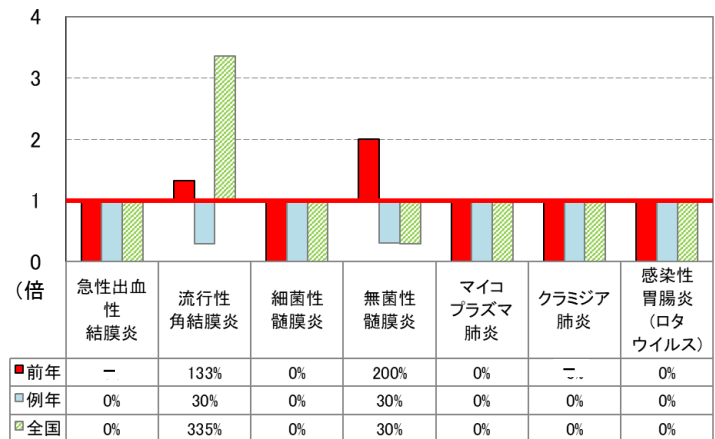


図8 2021年 前年、例年及び全国との比較
(眼科及び基幹定点把握対象疾患)

(3) 月報告定点把握対象疾患
性感染症と薬剤耐性菌感染症の報告数を前年、例年及び全国と比較した(図9)。

(ア) 性感染症

報告総数は497人(定点あたり38.2)で、前年の108%、例年の124%、全国の68%であった。

疾患ごとの性別報告数を図10-1、年齢群別報告数の割合を図10-2に示す。

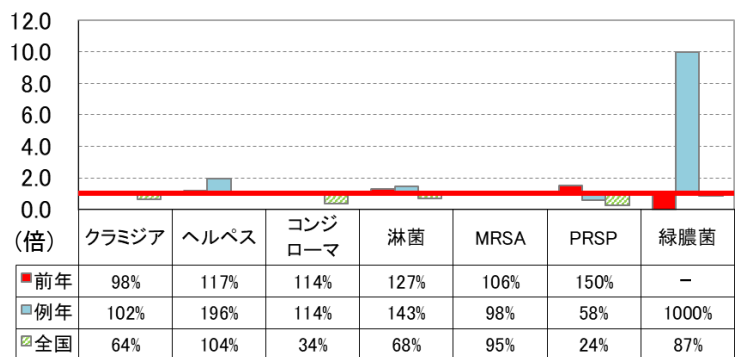


図9 2021年 前年、例年及び全国との比較
(性感染症及び薬剤耐性菌感染症)

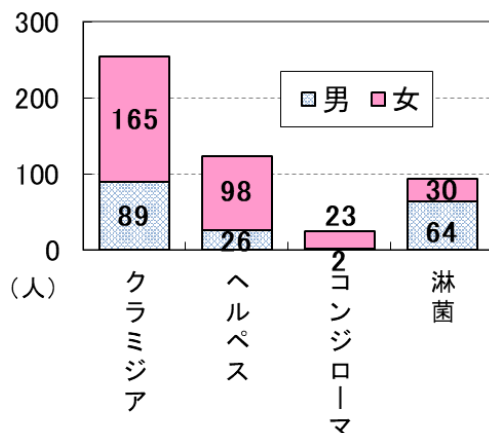


図10-1 疾患別性別報告数
(性感染症)

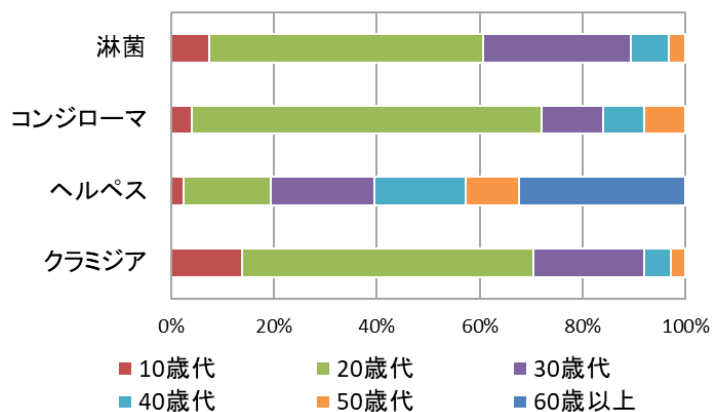


図10-2 年齢群別報告数の割合
(性感染症)

(イ) 薬剤耐性菌感染症

報告総数は206人(定点あたり29.4)で、前年の107%、例年の98%、全国の91%であった。年齢別では、MRSAは70歳以上が全体の約7割を占めた。PRSPは70歳以上が3例、薬剤耐性緑膿菌感染症は70歳以上が2例であった。